

産学官連携活動の実用化事例

RGB画像メラニンとヘモグロビン分離による非接触生体情報計測

概要

- ・この成果により解決が図られた現在社会が直面する課題

コロナ禍により非接触がキーワードとなり、また、日々の健康管理QOL向上が高く注目されている。

- ・成果

国立大学法人千葉大学と株式会社センシングは、共同研究により本技術の商用化と社会実装を進め、非接触による健康管理を実現させた。

- ・実用化まで至ったポイント、要因

研究現場と一般使用に係る差を各企業と協力し被験者に対し実施すること、また、生体情報の活用について数年協議を重ねたこと

- ・研究開発のきっかけ

非接触による生体情報計測技術を探している中、株式会社センシング代表取締役金より千葉大学津村研究室津村徳道先生に連絡をしたのがきっかけ

- ・民間企業等から大学等に求められた事項

高い精度を担保しつつ、より簡易的に使用できること、また、専門用語等を極力使用せずにわかりやすい表現と行動変容を導く大きなきっかけとなること

- ・技術の新しい点、パフォーマンスの優位性

本技術と主に自律神経に着目した健康管理と行動変容をアピールすることで優位性を図った

図・写真・データ



- ・ファンディング、表彰等
- ・参考URL

シリコンバレーアクセラレータ企業 Plug&Play 2022 Summer/Fall Batch AWARD受賞
東証プライム上場企業 MDV社との資本業務提携